【日本赤十字社医療センター麻酔科】専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う.

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である日本赤十字社医療センターは、「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として、高度な先進医療施設を目指し、地域がん診療連携拠点病院、母体救命対応総合周産期母子医療センター、救命救急センター、地域災害拠点病院を診療機能の中核とする病床数693の総合病院である。医療のライフラインである麻酔科は高い倫理観と使命感のもとに、麻酔科専門医8名（麻酔科指導医6名）、認定医2名と専攻医により、手術室15室（中央手術室12室、周産期手術室2室、血管撮影室1室）における年間約4,000件の手術麻酔管理、年間約200件の無痛分娩、集中治療科専門医が常駐する集中治療室（ICU）12床における年間約4,400名の延べ入室患者管理、麻酔科外来（歯科口腔外科外来併設）診療、心肺蘇生支援に従事し、スタッフ一丸となって24時間365日対応している。

各専攻医あたり必要な特殊麻酔症例はもとより、複雑心奇形等新生児症例を含む手術室麻酔、集中治療やペインクリニックなどの関連領域診療を、専門研修基幹施設において充実した指導体制のもとで経験する。専門研修基幹施設における2～3年間の研

修の後、専攻医各自が希望する専門研修連携施設において更に研鑽を積むことができる。

埼玉県立小児医療センターでは、ボストン小児病院で小児麻酔フェローシップを修了したスタッフによる小児麻酔認定医取得に必要な臨床経験および学術研究経験を積むことができる。

昭和大学病院では、日本臨床麻酔学会神経ブロック教育インストラクターによる超音波ガイド下末梢神経ブロックの技術を研鑽することができる。

大学病院における幅広い経験を希望する専攻医には、東京大学附属病院と岡山大学病院において市中病院では経験できない特殊麻酔症例および学術研究経験を研鑽することができる。

日本赤十字社病院間の連携体制を生かし、大森赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院においては地域特性に富んだ手術麻酔、集中治療など幅広い臨床経験を積むことができる。

日本赤十字社医療センターでは、麻酔科医自習室および医学図書室に整備されている端末から電子ジャーナル、ブック検索、種々のデータベースが利用可能である.

日本赤十字社医療センターでは、外部招聘講師による多彩な分野の講演会、多様な教育セミナーが頻回に開催されている. 院内において医療安全講習、感染制御講習、倫理講習に関する知識習得が可能である.日本ACLS協会開催BLS/ACLS（東京トレーニングラボ等）を研修期間中に受講し、心肺蘇生技能を習得する. 東京麻酔専門医会または連携施設が主催、共催、後援するハンズオンワークショップ、リフレッシャーコース、専門医共通講習会の受講、ケースカンファレンスへの参加を通じて、臨床現場では学びづらい技能・知識を習得する.

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する. 麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている.

本研修プログラムでは，専門研修基幹施設において麻酔科専門医の基盤となる知識・技術・コミュニケーション能力を習得した後、専攻医が希望する連携施設において段階的に専門的な研修を可能とする教育体制を整備している.

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の1年目は，専門研修基幹施設で麻酔診療の基礎となる研修を行う. 麻酔科症例検討会、関連する診療科を交えた症例検討会におけるディスカッションを踏まえて、日本臨床麻酔学会、日本蘇生学会などで学会発表を経験する。
- 研修の2年目は、専門基幹研修施設で小児の麻酔、帝王切開術の麻酔、心臓血

管外科手術の麻酔など、専門性の高い麻酔診療の研修を行う．日本麻酔科学会地方会、日本麻酔科学会総会、日本集中治療医学会などで学会発表を経験する。

- 研修の３年目は、専門基幹施設で新生児の麻酔、小児心臓血管手術の麻酔、移植手術の麻酔など特殊麻酔症例を経験し、あわせて集中治療やペインクリニックを含む様々な症例を経験する．専門基幹施設では経験できない症例や手技については、専攻医のニーズに応じて専門連携施設である埼玉県立小児医療センター等においてローテーション研修を行う．
- 研修の4年目は、専攻医のニーズに応じて専門連携施設である東京大学医学部附属病院、岡山大学病院、昭和大学病院、埼玉県立小児医療センター、東京都立小児総合医療センター、三井記念病院、東京都健康長寿医療センター等において研修を行い，様々な症例を経験するとともに研究マインドを涵養させ、論文執筆を経験する．
- 地域医療の維持のため，麻酔診療の供給が少ない地域にあり、高い質の指導体制が確保された専門連携施設である大森赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院において4年目の３～6ヶ月間麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解し、幅広い研鑽を積むことができる．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．
- 時間外労働・休日労働については、職員代表者が病院長と締結した36協定に則って従事する．当直明け8:30から当直翌日8:00までの時間は病院業務に従事しない. 1年に2回の健康診断を必ず受診する．ウィルス抗体価検査結果によりB型肝炎ワクチン、MRワクチンの接種、毎年10月からはインフルエンザワクチン接種を受ける。

研修実施計画例

年間ローテーション例（専攻医の希望により専門連携施設を選択）

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター、埼玉県立小児医療センター、大森赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院	東京大学医学部附属病院、岡山大学病院、昭和医科大学病院、東京女子医科大学病院、日本赤十字社医療セ

				ンター、東京医療センター
B	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター、東京大学医学部附属病院、岡山大学病院、昭和大学病院、東京女子医科大学病院	埼玉県立小児医療センター、大森赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院、日本赤十字社医療センター、三井記念病院、東京都健康長寿医療センター

週間予定表

日本赤十字社医療センター

	月	火	水	木	金	土	日
朝			抄読会				
午前	手術室	手術室	手術室	休	手術室	休	休
午後	手術室	手術室	手術室	休	手術室	休	休
夕					症例検討会		
当直			当直			1ヶ月に 1〜2回	

4. 研修施設の指導体制専門研修基幹施設

① 専門研修基幹施設

日本赤十字社医療センター

研修実施責任者：諏訪　潤子

専門研修指導医：諏訪　潤子（麻酔、心臓血管麻酔）

渡辺　えり（麻酔）

齋藤　豊（集中治療、麻酔）

大塚　尚実（麻酔、集中治療）

浅野　哲（集中治療、産科麻酔）

林　南穂子（麻酔、集中治療）

堤　香苗（麻酔、産科麻酔）

専門医：　　松岡　未紗

半田　敬祐

認定病院番号：76
特徴：がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害救護を担う、地域の中核施設

麻酔科管理症例数 4,047症例

② 専門研修連携施設A

<u>東京大学医学部付属病院</u>

研修プログラム統括責任者…内田 寛治
専門研修指導医… 内田 寛治(麻酔)
住谷 昌彦(緩和、ペイン)
伊藤 伸子 (麻酔)
河村 岳 (麻酔、集中治療)
朝元 雅明 (麻酔)
假屋 太郎(麻酔、心臓麻酔、集中治療)
阿部 博昭 (緩和、ペイン)
牛尾 倫子 (麻酔、集中治療)
井上 玲央(麻酔、緩和、ペイン)
平井 絢子 (麻酔、心臓麻酔)
今井 洋介 (麻酔、心臓麻酔)
桑島 謙 (麻酔、心臓麻酔)
玉井 悠歩 (麻酔、産科麻酔)
廣瀬 佳代 (麻酔)
星野 陽子 (麻酔)
水枝谷 一仁 (麻酔、集中治療)
池田 貴充(麻酔、集中治療)
古田 愛 (麻酔)
岩切 正樹 (麻酔、心臓麻酔、集中治療)
江坂 真理子(麻酔、心臓麻酔)
永谷 雅子 (麻酔、心臓麻酔)
若林 諒 (麻酔)
横島 弥栄子(麻酔、緩和、ペイン)
認定病院番号 ：1

特徴…臓器移植術、低侵襲手術や先進医療など、様々な麻酔管理を経験できる。術中麻酔管理だけでなく、集中治療、ペインクリニック、和痛分娩の管理を含めた産科麻酔など、幅広い麻酔科関連領域での研修機会を提供している。豊富な教育リソースを利用して充実した研修を体験できる。

麻酔科管理症例数　8531 症例

岡山大学病院

研修実施責任者：森松　博史

専門研修指導医：森松　博史（麻酔，集中治療）
岩﨑　達雄（麻酔，集中治療）
清水　一好（麻酔，集中治療）
松岡　義和（麻酔，集中治療）
金澤　伴幸（麻酔，集中治療）
鈴木　聡（麻酔，集中治療）
谷　真規子（麻酔，集中治療，医学教育）
小坂　順子（麻酔，集中治療）
中村　龍（麻酔，集中治療）
荒川　恭佑（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
岡原　修司（麻酔，集中治療）
清水　達彦（麻酔，集中治療）
伊加　真士（麻酔，集中治療）
佐倉　考信（麻酔，集中治療）
篠井　尚子（麻酔，集中治療）

専門医：成谷　俊輝（麻酔，集中治療）
木村　貴一（麻酔，集中治療）
吉田　翼（麻酔，集中治療）
松岡　勇斗（麻酔，集中治療）
根ケ山　諒（麻酔，集中治療）
寺尾　英梨奈（麻酔）

認定病院番号:23

特徴：小児心臓手術や臓器移植手術（心，肺，肝，腎）などの高度先進医療に加えて，食道手術や呼吸器外科手術における分離肺換気など特殊麻酔症例も数多く経験できる．　また麻酔のみならず，小児を含む集中治療（22床），ペインクリニックの研修も可能である．また周術期管理センターが確立しており，多職種による周術期チーム医療システムを学ぶこともできる．

昭和医科大学病院

研修実施責任者：大江　克憲

専門研修指導医：大江　克憲（小児心臓麻酔）

加藤　里絵（産科麻酔・手術麻酔）

小谷　透（集中治療）

米良　仁志（ペインクリニック）

尾頭　希代子（手術麻酔・心臓麻酔）

細川　幸希（産科麻酔・手術麻酔）

小林　玲音（ペインクリニック・手術麻酔）

石田　裕介（神経麻酔・集中治療）

五十嵐　友美（集中治療）

専門医：髙橋　有里恵（手術麻酔）

岡崎　晴子（手術麻酔）

五反田　倫子（産科麻酔・手術麻酔）

佐々木　友美（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：33

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔)、集中治療、緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

横浜市立みなと赤十字病院

・研修実施責任者の名前　西村一彦

・所属する専門研修指導医の名前と各指導医の専門領域

西村一彦（麻酔）

井上由実（麻酔）

川内泰子（麻酔）

武居哲洋（集中治療）

永田功（集中治療）

藤澤美智子（集中治療）

大橋望由希（麻酔）

藤雅文（集中治療）
小村理恵（麻酔）
秋吉美緒（麻酔）
鈴木裕倫（麻酔）
柴田隼平（麻酔）
堀萌子（麻酔）
熊田祥子（麻酔）

・施設の特徴

都市部中核の総合病院であるとともに、救急医療の拠点であり、様々な症例が経験できる。また、集中治療、救急の研修も可能である。

・認定施設番号　1205

<u>東京女子医科大学病院（以下、東京女子医科大学本院）</u>

研修プログラム統括責任者：黒川 智（麻酔）
専門研修指導医： 黒川 智(麻酔)
尾崎 恭子(麻酔)
鈴木 康之(麻酔)
笹川 智貴(麻酔, ペインクリニック)
横川 すみれ(麻酔)
濱田 啓子(麻酔)
庄司 詩保子(麻酔, ペインクリニック)
土井 健司(麻酔)
石川 高(麻酔)
古井 郁恵(麻酔)
山本 偉(麻酔)
後藤 俊作(麻酔)
小嶋 宏幸(麻酔)
武石 健太(麻酔)
中澤 莉沙(麻酔)
黒田 真由美(麻酔)
加賀屋 菜々(麻酔)
鈴木 真也(麻酔)
大角 香穂 (麻酔)
認定病院番号: 32
特徴：豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの 研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能 です．多種の臓器

移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコ ーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．　麻酔管理症例数(2023年度) 6870件

国立病院機構 東京医療センター

研修プログラム統括責任者：吉川　保

専門研修指導医：小林佳郎　　　（麻酔）
吉川　保　　　（麻酔・ペインクリニック）
櫻井裕教　　　（麻酔・集中治療）
森　庸介　　　（麻酔・集中治療・心臓麻酔）
安村里絵　　　（麻酔・集中治療・心臓麻酔･区域麻酔）
加藤奈々子　　（麻酔・産科麻酔）
吉武美緒　　　（麻酔）

専門医：中川布有加　　（麻酔）

認定病院番号　221号

特徴：東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され、伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設である。近年は地域との結びつきの強い急性期病院として、救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに、高度先進医療にも取り組んでいる。そして当センターの理念『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく、技術とシステムの改修に加え、診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院である。麻酔科としても、2016年から麻酔科術前外来を開設、2020年からAPSチーム、2021年から和痛チームが発足し、術前から術後まで周術期チームの核となるべく様々な取り組みを行っている。専門医以上のスタッフが多く、若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつである。どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を怠らないようにしている。また医局の枠にとらわれず、国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つである。

③　専門研修連携施設B

埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文
濱屋　和泉
佐々木　麻美子

釜田　峰都

大橋　智

石川　玲利

石田　佐知

寺端　昭博

認定病院番号：399

特徴：小児の総合医療施設として、外科系各科の周術期管理についての研修が可能です。

大森赤十字病院

研修実施責任者：　　　市川　敬太

専門研修指導医：　　　市川　敬太（臨床麻酔）

大戸　浩峰（臨床麻酔）

認定病院番号：No.753

特徴：地域医療支援病院、災害拠点病院などとして

東京都区南部地域医療に貢献。

三井記念病院

研修プログラム統括責任者：横塚基

専門研修指導医：横塚基　　（麻酔，心臓麻酔）

大野長良　（麻酔，心臓麻酔）

竹内純平　（麻酔，心臓麻酔）

大槻達道　（麻酔，心臓麻酔）

佐藤瑞穂　（麻酔，蘇生）

今井恵理哉（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

田中真佑美（麻酔）

松永涉　　（麻酔，心臓麻酔，産科麻酔）

山本麻里　（麻酔）

小平亜美　（麻酔，心臓麻酔）

滑川元希　（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

仲西里奈子（麻酔）

上條苑子　（麻酔）

認定病院番号：68

特徴：東京都，区中央部医療圏の高度急性期機能・急性期機能を担うことに特化した急性期病院．CCUネットワークや急性大動脈ネットワークを通じて，重篤な緊急患者の受け入れを積極的

に行っている．また，地域医療支援病院・災害拠点病院として地域医療の中核を担っている．
成人の心臓麻酔・透析患者・重症患者を中心に幅広い症例を経験できる．
麻酔科管理症例数 4770 症例（2023 年度）

東京都健康長寿医療センター

研修実施責任者：小松 郷子
専門研修指導医：

小松 郷子
縄田 瑞木
久保田 涼
秋山 絢子
清水　啓介
内田 博
脊山 雅子

認定病院番号：103
特徴：高齢者研究施設が併設された我が国を代表する高齢者専門病院です。加齢に伴う生理学的変化を学ぶことができ、さらに心疾患、呼吸器疾患、脳血管障害などの合併症を持つハイリスク症例を経験できます。ハイブリット手術室では心臓大血管手術や脳血管内手術が行われており、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）の認定施設にもなっております。
麻酔科管理症例数 1835 症例

東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：西部　伸一
専門研修指導医：西部　伸一　（小児麻酔）
山本　信一　（小児麻酔）
北村　英恵　（小児麻酔）
簑島　梨恵　（小児麻酔）
伊藤　紘子　（小児麻酔）
箱根　雅子　（小児麻酔）
佐藤　慎　（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行

える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

5.専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法 専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の 研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先 本研修プログラムへの問い合わせは，日本赤十字社医療センター麻酔科専門研修プロ グラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である． 日本赤十字社医療センター 教育研修推進室 吉國 裕子、清水　早苗、 東京都渋谷区広尾4-1-22 TEL 03-3400-1311 E-mail rinsyokensyu@med.jrc.or.jp Website http://www.med.jrc.or.jp/recruit　募集要項掲載は4月頃を予定。

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する.

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する.

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門

研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9.専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡さ

れる．

- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．
- 手術室では、医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師が周術期管理チームを結成して他職種参加型の診療体制を構築している。専攻医は、周術期管理チーム構成員から評価を受ける．
- 専門研修指導医は、臨床研修指導医講習会、日本麻酔科学会または院内の臨床研究推進室が企画する Faculty Development Program の受講および e-lerning により、専攻医へのフィードバック法など指導法を学習することが必須である．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10.専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11.専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12.専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13.地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての埼玉県立小児医療センター、東京都立小児総合医療センターなど幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．